

公立大学法人金沢美術工芸大学
平成22年度 業務実績評価書

平成23年 8月

金沢市公立大学法人評価委員会

評価方法

1 評価の構成

「項目別評価」及び「全体評価」による。

2 項目別評価

ア 法人による自己評価

法人が作成した年度計画の最小単位の項目（以下「小項目」という。）ごとに、法人自らが、以下の4段階の区分により、その進捗状況を判断理由を付して評価する。

年度計画の大項目第6から第10に関しては業務実績のみを記載

【評価基準】

評価区分	評価内容
	年度計画を上回って実施している
	年度計画を十分に実施している
	年度計画を十分には実施していない
	年度計画を実施していない

イ 評価委員会による評価

(ア) 評価委員会は、法人が行った自己評価の結果について妥当性を確認し、法人と評価の結果が異なる場合は、評価が異なる理由を示すものとする。

(イ) 評価委員会は、(ア)の評価結果を踏まえ、法人の業務実績を総合的に検証し、中期目標の次の大項目（大学の教育研究等の質の向上に関する目標については中項目）ごとに、以下の5段階の区分により進捗状況を評価するとともに、特筆すべき点や改善が望まれる点についてコメントを付す。

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

業務運営の改善及び効率化に関する目標

財務内容の改善に関する目標

自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

その他業務運営に関する重要目標

【評価基準】

評価区分	評価内容
S	中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある ----- 評価委員会が特に認める場合
A	中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる ----- 評価委員会の小項目別評価が全て または (注)
B	中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる ----- 評価委員会の小項目別評価の または の割合が9割以上(注)
C	中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている ----- 評価委員会の小項目別評価の または の割合が9割未満(注)
D	中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある ----- 評価委員会が特に認める場合

(注) 目安であり、社会情勢等の変化による進捗の遅れや、小項目の比重を考慮して評価委員会で判断

3 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について記述式により評価する。なお、評価を通じて得られた大学運営に関する課題や改善事項等についても、併せて記載するものとする。

また、評価制度が大学運営の検証という役割に加えて、大学の活動状況を市民に公表する役割も担っていることから、大学の特色ある取り組みや工夫等については、積極的に評価するものとする。

評価結果

全体評価

年度計画に定めたほとんどの項目は着実に実施されており、項目別評価においても A 評価(中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)が 5 項目、B 評価(中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる)が 2 項目と、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

公立大学法人への移行を機に、組織の活性化を図る気運が高まり、中期目標の達成に向けた積極的な取り組みが随所に見受けられた。

以下に、大学の特色ある取り組みや工夫等として評価できるものを挙げる。

- ・ 教育の質の向上に関しては、特色ある教育を効果的に実施するために、専攻の枠組みを超えて学生が自由かつ主体的に一定の単位を修得し、全教員が意欲的に参画する教育システムである「KOUBOU 教育」を中核とする、平成 24 年度のカリキュラム改編に関する検討・準備が着実に推進されていること。
- ・ 研究の質の向上に関しては、「平成の百工比照」収集作成事業、柳宗理氏の業績研究等の実施、「アジア工芸教育交換プログラム」によるアジア諸国との人的ネットワーク構築等により、新たな芸術創造に資する高度な調査研究や地域の特色ある課題に取り組んでいること。
- ・ 社会連携に関しては、企業及び自治体等へのデザイン支援等を 31 件受託したほか、地域の伝統文化や風習の中から新しい工芸やデザインの可能性を引き出そうとする試みである「平成の加賀獅子」制作や、医療分野におけるアートの潜在的な可能性について調査研究する「ホスピタリティ・アート・プロジェクト」を金沢市立病院と連携して実施するなど、教育研究成果を積極的に社会に還元してきていること。
- ・ その他業務運営に関しては、同窓会と共同で実施する「2011 東京・銀座 - 金沢 - N.Y 大展示会」開催のための実行委員会の設立や、企業との包括連携協定を締結するなど、学外からの支援体制の充実を図っていること。

項目別評価

1 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（教育に関する目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の 61 の小項目のうち、評価（年度計画を上回って実施している）が 8 項目、評価（年度計画を十分に実施している）が 51 項目、評価（年度計画を十分には実施していない）が 2 項目となっており、これらの状況を総合的に勘案すると、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

特筆すべき点

- ・ 平成 24 年度のカリキュラム改編を目指し、具体的なカリキュラム改編案を策定した。
- ・ 「素材を学び、手業を磨く基礎実技科目の充実」や「多様なメディアを用いた複合的な表現領域の教育の強化」を目指し、「KOUBOU 教育」についての素案を作成した。
- ・ 実践的な教育を推進するため、環境デザインにおいて、建材メーカーに所属するデザイナーや社長を講師として招聘し、技術や知識だけではなく、デザイナーとして社会で自立していくための方法等について指導を行った。
- ・ 大学院教育においても「多様なメディアを用いた複合的な表現領域の教育の強化」について、平成 24 年度からのカリキュラム改編において、「映像メディア」、「アートプロジェクト」、「工芸素材技法演習」などの新たな科目を新設することを決定した。
- ・ 成績評価の客観性を高めるためのピアレビューは、各専攻内の複数教員によるものにとどまらず、デザイン科 3 専攻間及び油画専攻と工芸科間など異専攻間で実施された。また、大学院の専攻、領域においてはさらなるピアレビューの実施が見られ、特に博士後期課程の研究発表会において複数専攻の教員による活発な質疑、評価がなされ、評価の客観性が一層高められた。
- ・ 正課外の芸術活動等を支援するため、地域連携により無償で借り受けたスタジオの運営にあたる、地域団体役員と教員とで組織する運営協議会を設立した。
- ・ 同窓会や地元企業からの寄附により、学生への発表活動への支援や学生表彰事業を行った。

改善が望まれる点

- ・ 大学院教育に携わる教員の資質を担保するために、大学院指導資格基準を策定し、これに基づく指導教員の審査の実施が望まれる。

2 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（研究に関する目標）

評価	B （中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる）
-----------	---------------------------------------

年度計画記載の 15 の小項目のうち、評価（年度計画を上回って実施している）が 4 項目、評価（年度計画を十分に実施している）が 10 項目、評価（年度計画を十分には実施していない）が 1 項目と、又は 評価の割合が 9 割を超えて（93.3%）おり、中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

特筆すべき点

- ・ 国際的な共同研究事業として「アジア工芸作家等研修支援業務」を立ち上げ、ミャンマー等伝統的工芸技術が残された開発途上国との交流研究事業と韓国や台湾からの招聘事業を行い、ものづくりに関わる技術交流と将来に向けての有効な人的ネットワークの構築を図った。
- ・ 効果的な教員の研究成果報告を実施するために、全て文書で報告するよう制度化した。
- ・ 研究活動とその成果について、提出された成果報告書の内容を点検・評価し、その結果を次年度の研究費の配分に反映させ、教員の研究活動の活性化を図った。
- ・ 若手や意欲のある教員、先端性や公共性のある研究をテーマとする教員などを積極的に評価し、大学の個性化につながる研究や外部資金の獲得につながる研究を奨励した。

改善が望まれる点

- ・ 研究活動の活性化を目指し、文部科学省科学研究費補助金の申請件数を段階的に増やしていくことが望まれる。

3 大学の教育研究等の質の向上に関する目標（その他の目標）

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の 24 の小項目のうち、評価（年度計画を上回って実施している）が 3 項目、評価（年度計画を十分に実施している）が 21 項目と、全ての項目が 又は 評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

（特筆すべき点等）

特筆すべき点

- ・ 金沢市のクリエイティブ・ワルツ事業に応募し、4 名をベルリン市等のユネスコ創造都市に派遣し、報告会を創造都市会議だけでなく、学内でも実施し、学生自身の研究目的はもちろんのこと金沢市の国際交流にも貢献した。
- ・ 社会をフィールドとした教育環境の中でマネジメント感覚を育むために、企業及び自治体からの商品開発依頼や地域活性化へのデザイン支援等を 31 件実施したほか、市立病院と連携したホスピタリティ・アート・プロジェクトや、市立工業高校と連携しての学校環境をアートで飾る事業を実施した。
- ・ 国際交流の推進事業の一環である「アジア工芸教育交換プログラム」で、ミャンマーにおいては、国立漆芸技術大学での漆のワークショップや、サウンダー染織学校での染織の講義・ワークショップを、台湾においては、新竹懸新埔での柿渋ワークショップと講義、国立台湾工芸研究所でのラックの採集・染色ワークショップを、韓国においては、デザイン政策と高等教育の現況視察を実施した。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

評価	A（中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる）
----	-----------------------------

年度計画記載の 15 の小項目のうち、評価（年度計画を上回って実施している）が 1 項目、評価（年度計画を十分に実施している）が 14 項目と、全ての

項目が 又は 評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

特筆すべき点

- ・ 効果的、効率的な教育研究活動の実現を図るため、教員と非常勤職員の雇用形態について検討するだけでなく、退職した教員を専任として初めて再雇用するとともに、美術モデルの雇用条件についてこれまでの方式を改め、専攻が必要とするモデルについては加重して賃金を配分する方式に変更した。

5 財務内容の改善に関する目標

評価	B (中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調に進んでいる)
-----------	---------------------------------------

年度計画記載の12の小項目のうち、評価(年度計画を十分に実施している)が11項目、評価(年度計画を十分には実施していない)が1項目と、又は評価の割合が9割を超えて(91.7%)おり、中期目標・中期計画の達成に向けて概ね順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

改善が望まれる点

- ・ 財政基盤の強化を図る目的で外部資金の導入に積極的に取り組むために、文部科学省科学研究費補助金の申請件数を段階的に増やしていくことが望まれる。

6 自己点検・評価及び情報の提供に関する目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の8の小項目のうち、評価(年度計画を上回って実施している)が1項目、評価(年度計画を十分に実施している)が7項目と、全ての項目が

又は 評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

特筆すべき点

- ・ 自己点検・評価の機能を大学運営に反映できるよう、自己点検・評価実施運営委員会において、大学基準協会が定める全点検・評価項目について、「改善計画書に関する達成状況について」を作成した。

7 その他業務運営に関する重要目標

評価	A (中期目標・中期計画の達成に向けて順調に進んでいる)
-----------	-------------------------------------

年度計画記載の 14 の小項目のうち、 評価 (年度計画を上回って実施している) が 1 項目、 評価 (年度計画を十分に実施している) が 13 項目と、全ての項目が 又は 評価であり、中期目標・中期計画の達成に向けて順調な実施状況にある。

(特筆すべき点等)

特筆すべき点

- ・ 学外からの支援体制を充実するために、銀行や協同組合と、教育・研究の推進並びに地域社会の発展・活性化及び人材の育成・交流に寄与することを目的とした包括連携協定や街づくりに関する協定を締結した。